

令和2年 2月 吉日

「子ども家庭支援センターみらい」保護者各位

子ども家庭支援センターみらい

園長 大迫 より子

## 児童発達支援事業所における 保護者からの児童発達支援事業所評価結果について（報告）

春寒の候、皆様におかれましては、益々ご健勝にてお過ごしのことと拝察いたします。

さて、昨年12月に児童発達支援事業所についての自己評価及び保護者へのアンケートを実施いたしました。

保護者からの評価につきましては、ほとんどの方々が事業所に対して満足しているという高い評価をいただきました。

今後改善が必要な項目としては、前年度も「わからない」と数名の方が答えていた、非常時等の対応「緊急時対応マニュアル、防火マニュアル、感染症マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。発生を想定した訓練が実施されているか」・「非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか」の項目に「どちらともいえない」「わからない」と答えている方がいらっしゃいました。改善に努めましたが、周知・説明が不十分であることがわかり、訓練についても、法令にしたがって行っているものの、子どものみの訓練のため、保護者自身が実施状況を感じにくいこと、訓練についての説明や結果報告も不十分な現状がありました。また、「個人情報の取り扱いに十分注意されているか」の項目に数名の方が「わからない」「どちらともいえない」と答えていました。

上記の対応については、毎月開催している運営委員会や保護者学習会、広報に取りあげ、周知を図っていきたいと思います。「個人情報」の取り扱いについては、取り扱いについての事業所の取り組みを個別だけではなく、全体の場で保護者に説明していく機会をつくっていきたいと思います。

今後も、事業所への要望や意見等を寄せていただく中で、よりよい事業所づくりに努めていきたいと考えています。これからもどうぞ宜しくお願いいたします。

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和2年 2月20日

事業所名 子ども家庭支援センターみらい

保護者等数(児童数)19名(20名) 回収数17名 割合 89 %

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	17	0	0	0	子供達がのびのび先生方と過ごせる場所です。	活動内容や参加人数に応じて対応し、のびのびと活動できる環境づくりに今後も務めていきます。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	15	1	0	1	常に目配り、安全を考慮して頂いている。先生方一人一人の負担が大きい気がします。先生の人数が足りず、多忙を極めている。	法令に従った職員数を配置しています。職員の日々の姿を見て、忙しそうと感じたり、負担があると心配している保護者の方がいることは有難く、また、そのように感じさせている現状に反省です。これからも、専門性を高め、子どもの発達支援に従事していきます。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境*1になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	17	0	0	0	イラストの掲示物もわかりやすく、整理整頓も適切。	引き続き、子どもの実態に応じた対応を心がけていきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	17	0	0	0	綺麗で子どもも喜んで遊んでいる。	引き続き、心地よく過ごせる環境づくりに努めていきます。
適切な支援の提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画*2が作成されているか	17	0	0	0	詳しい説明もあり、納得できている。	今後も、ニーズをしっかりと反映した計画作成に努めていきます。
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	17	0	0	0	細かく課題も教えて頂けて、今まで出来なかった事が少しずつできています。子どもに対しての効果が出ている。	具体的にわかりやすい支援計画となるように、努めていきます。
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	17	0	0	0	適切です。	今後も児童館を中心に計画に沿った支援であるか確認しながら、検討も含め、取り組んでいきます。
	8 活動プログラム*3が固定化しないよう工夫されているか	16	0	0	1	四季折々、年中行事、様々な活動をしています。	活動の意味や考え方について、今後もわかりやすく説明していきます。
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	15	2	0	5	広いコミュニティです。併行通園であるため問題なし	本園は9割が併行通園児です。今後も子どもたちの実態に応じて対応していきます。
	10 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	16	0	0	1	とても親切に教えて頂きました。	できるだけ、わかりやすい説明を心がけていきます。気軽に質問もしていただきながら、共通理解を図っていけるように努めていきます。
11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	17	0	0	0	何のためにこれをするという目的を捉えたカリキュラムが組まれていてわかりやすいです。	今後も、わかりやすい説明に努めていきます。	
12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング*4等)が行われているか	16	0	0	1	家での困り事に対して親身にアドバイス頂きその都度対策に取り組め感謝です。	とても大事な時間であると考えています。いつも多くの方の参加をいただき、有難く思っています。積み重ねていく中で、子ども理解や家庭生活の過ごし方等に生かされていることに喜びを感じています。今後も丁寧に取り組んでいきます。	

保護者への説明等	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	16	0	0	1	日々の活動様子(気持ち面)も丁寧に教えて頂け情報共有できています。 毎日、降園前にその日その日の様子を細かに報告くださり、我が子の様子はもちろんクラス全体の様子も知れるのでありがたいです。	療育での姿、家庭での姿を語り合い、子どもの今を見つめていける関係を今後も大事にしていきたいと思います。
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	17	0	0	0	適格すぎるアドバイスばかり、親は救われています。面談で子どもの成長も課題もよく分かるし、普段のちよっとした気がかりも先生に相談しやすい。	保護者学習交流会、実践報告会は定期的に行っており、個別面談も受けています。些細なことでも気軽に相談できる関係づくりと悩みに気づける職員であり続けるように努めます。
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	17	0	0	0	保護者との交流から多くを学ぶ場面もあります。 保護者の交流学習会なども定期的であり、お母さんたちとのつながりも深まって子育ての支え	保護者の方々が、親の会の活動へ楽しく集い、つながりを感じていけるように、よりよい連携に努めています。
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	17	0	0	0	何かあった時、真っ先に相談できて、その後のケア、フォロー対策に尽くしていただいています。	今後も、相談に対して、できるだけ迅速に対応していくことを目指していきます。
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	16	0	1	0	個別での面談やその都度室での応答(対応)助かっています。	今後もよりよい関係づくり、情報伝達のための配慮に努めています。
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	15	1	1	0	写真付きのおたよりをもらい、子どもと一緒に見たりしながら楽しみにしています。 行事予定も早めに教えてくださるのが本当に助かります。	わかりやすく、読みやすい広報や必要な情報を早めに開示していくことを心がけていきます。
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	14	1	0	2	守られています。	引き続き、十分注意して取り扱います。
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	13	3	0	1	避難訓練もあり、安心して任せられます。	各マニュアルは作成し、掲示していますが、全員は周知できていない状況があるため、訓練を親子で行う等の工夫をしていきます。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	14	2	0	1	訓練活動があります。	法令に従って訓練を開催しています。異常気象によってもたらされる災害についても、地域の消防署等に相談し、万が一に備えた訓練を検討していきます。
	22	子どもは通所を楽しみにしているか	17	0	0	0	とても楽しく通園しています。週5日みらいに行きたいと言うほど楽しみにしている。 行きしぶりが長く続きましたが、皆さんのおかげで、登園を楽しみにする姿が見れてとても嬉しいです。	子どもたちにとって、安心できる場、楽しい場、自分を発揮できる場であるように努めていきます。

満足度							満足しています。少人数の体制なので手厚い療育が行き届いているように感じています。子どもの思いにとことん寄り添って下さり、みらいの先生がいるも本当に楽しそうに子どもの様子を報告してくれるので、こちらまでワクワク楽しくなってくる。大満足です。手厚い支援を受けることができ感謝しています。	よりよい「発達支援」「家族支援」「地域支援」を目指していきます。今後も事業所に対する意見や要望を出していただけるとうれしいです。
	23	事業所の支援に満足しているか	17	0	0	0		

\*1 この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすること。

\*2 児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

\*3 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

\*4 保護者が子どもの行動を観察して障がいの特性を理解したり、障がいの特性を踏まえた褒め方等を学ぶこと。子どもが適切な行動を獲得することを目標としている。

令和2年 2月 吉日

関係者各位

子ども家庭支援センターみらい  
園長 大迫 より子

## 児童発達支援事業所における自己評価の結果について（報告）

春寒の候、皆様におかれましては、益々ご健勝にてお過ごしのことと拝察いたします。

さて、昨年12月に児童発達支援事業所についての自己評価及び保護者へのアンケートを実施いたしました。

事業所における自己評価のついては、昨年度の自己評価に基づき、取り組みを進めてきたため、大きく改善すべき点はありませんでしたが「活動のプログラムの立案をチームで行っているか」の項目で、チームで検討する際に、もっと活動の提案や自分の意見を出せるようになりたいという願いを記入している職員が多く、学びたい思いや子ども理解を深めていきたい思いを知ることができました。定期的に研修の機会を設けていますが、今年度は都合が合わずに参加できない職員がいた現状があったため、まずは日々の支援の振り返りの在り方（子どもの実態から活動につなげる）を見直し、職員一人一人に応じた学びの場づくりに取り組んでいきたいと考えています。

結果をもとに、一つ一つの項目にそって確認していく中で、全職員で共通理解を深めていくことができました。

今後も、信頼されるよりよい事業所であり続けていくために、事業所のあり方を問いながら、「発達支援」「家族支援」「地域支援」その一つ一つを丁寧に取り組んでいきたいと思えます。これからも、どうぞ宜しくお願いいたします。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年 2月 20日

事業所名 子ども家庭支援センターみらい

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		法令に従って十分なスペースを確保している。	
	2 職員の配置数は適切である	○		法令に従った職員数を配置している。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		子どもの実態に応じたわかりやすい環境づくり、発達を促すために必要な手立てを講じている。室内はバリアフリー、階段は手すりあり。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		こまめに清掃、消毒を行っており、定期的に安全点検を行い、安心、安全な環境づくりに努めている。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		全職員で課題を共有し、業務改善に向けての話し合いを行っている。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		意見箱や親の会からの要望、個別面談等での意見をもとに、業務改善に努めている。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		今回の評価をうけ、今後も定期的にアンケートをとり、公表していきたい。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		法人で定期的に行い、必要に応じて改善につなげている。	
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		法人研修、外部研修へ多くの職員が参加できるように、年間計画をたてている。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		相談支援専門員、子ども・保護者のニーズをもとに、分析、検討を行い作成している。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		標準化されたアセスメントツールを使用している。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		できるだけ、わかりやすく具体的な支援内容を設定している。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		支援計画に沿った支援について共通理解を深め支援を行っている。児発管が定期的にチェックを行っている。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		年間、月、週、〇〇活動等、担当職員を中心にチームで療育内容の検討を行っている。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		年間活動計画作成の中で、療育内容を検討しており、季節の行事、子どもの実態に応じた活動内容の工夫を行っている。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		集団療育の中に個別活動(個々の課題に応じた支援)を取り入れており、計画を作成している。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援開始前に必ず打ち合わせを行っている(細かい対応については前日までに共通で理解を図っている)。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援終了後に反省会を行っている。参加できない職員に関しては文章でのやりとりを行っている。	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		子どもの実態、支援のポイント、変化、今後の課題につながる内容を記録するように心がけている。	
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		支援計画に沿った、現状等を確認し、支援の方向性を検討している。		

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	基本的に児童発達支援管理責任者が出席しているが、ケースに応じて担当職員も同席している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○	地域のネットワーク会議への参加。ケースに応じて連携を図っている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	入園前の体験活動、連携会議、日常の電話等での実態把握を通して情報共有、相互理解を図っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	連携会議への参加(情報提供、支援についての相互理解)。事前の体験活動、卒園後も必要に応じて訪問、連携会議を行っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	研修会、公開療育等へ参加し、連携及び学びを深めている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○	ほぼ、幼稚園保育園との併行通園児であるため、障がいのない子どもとの活動は日常的に保障されている。	法人内の他事業所と子どもの発達段階に応じてグループ分けを行っているため、現在、本事業所は殆どの園児が併行通園である。そのため、園としての交流は法人内の保育園があるが、今後、実態に応じて積極的に機会をつくっていきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○	積極的に参加していくよう、努めている。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	活動後の引き継ぎ等、できるだけわかりやすく伝えられるように、家庭での様子を把握できるように努力している。	日々の引継ぎの時間では、保護者によっては物足りなさを感じている方もいると思うので、いつでもどんなことでも気軽に相談できる雰囲気や体制をつくり、安心の子育てにつながるよう努力していきたい。
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○	定期的に学習会、交流会を実施している(発達、関わり方、価値観等)親の会活動、法人の家族会活動等もあり、よりよいつながりがある。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	契約時にできるだけわかりやすく説明を行っている。契約後も日常的に質問に答えている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○	支援内容、支援計画についての説明を行う時間を設定し、保護者からの同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	定期的な面談、及び保健師による面談等を実施していく中で、子育ての悩みが解決していけるように努めている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	親の会と連携しながら、楽しく交流する場、共に学び合う場をつくっている。法人の家族会、県の父母の会への参加も保育園体制をつくり、支援している。	
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○	相談や申し入れには迅速に対応できるように体制をつくっている。苦情受付窓口や第三者委員会については契約時に説明を行い、事業所玄関に掲示している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	法人会報、事業所活動内容に関するお便りを定期的に発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○	個人情報の取り扱いについて契約時に説明を行っている。個人情報についての細かい対応等についても職員間で周知徹底し対応している。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	個々に応じて必要な支援(視覚支援含む)を行い、必要に応じて(聴覚等)医療機関との連携を図り、手立ての工夫を行っている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	もちつき会、避難訓練等、地域の方々に参加していただき、事業所への理解及びよりよい関係の構築に努めている。	

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○	各種マニュアルを作成し、いつでも手に取って読めるように掲示している。	契約時の説明と掲示のみでは、保護者が理解をしていくことが難しい実態が見えてきたため、理解していくための機会をつくっていききたい。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	年2回以上実施している。日常の活動の中で災害や避難等についての読み聞かせを定期的に行っている。	療育活動は母子分離の活動のため、今年度は子どものみで訓練を行ったが、訓練実施を理解していない保護者もいるため、親子での避難訓練も取り組んでいきたい。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○	契約時のアセスメント等の中で確認している(書類に記入欄あり)。年2回の園内健診で再度確認し医療と連携している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	食物アレルギーに関しては、医師の診断に基づき、保護者と話し合い対応している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	朝の打ち合わせ及び毎月の職員会議の中でヒヤリハット事例について話し合っている。文書でも回覧し、職員で共有している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	外部研修へ参加し、内部研修で学び合う機会を設けている。人権についての研修、職員のストレスチェック等についても定期的に行っている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○	身体拘束は行うことはありませんが、どのようなことが身体拘束にあたるのかの理解(職員)を深めている。今後身体拘束等について必要なケースに関しては、検討を行った末に支援計画に記載し、保護者の了解を得て、支援を行っていく。	